鎔鑛爐を取捲く

非常汽笛を吹き鳴らし 暗夜の製鐵所凄風漲る

[illegible]の動搖は夜の更くると共に一[illegible]の緊張となり來れるが六日[illegible]七時[illegible]書れたる友愛會支部[illegible]製鐵所工場は非常汽笛を吹き鳴し暗夜の工場愈〻凄壮の氣に包まる[illegible]九時製鐵所の中[illegible]爐を數千の職工が取巻き間の聲を擧げつゝ盛んに投石を爲しつゝあり[illegible]製鐵會に動轉されて憤起せる職[illegible]所内外より呼應して午後（六日、午後九時）

遂に襲撃す

數百名鎔鑛爐を目がけて 警官憲兵と大衝突

[illegible]爐を襲撃し又中央機關の[illegible]を中止せしむべく鎔鑛爐附近に集合せる五百餘名の職工は喊聲を擧げて數回の突撃を敢し數百名の警官憲兵と大衝突を爲し寄せては返すこと數回最早收拾すべかざるに至れるもの如しと（六日、午後十一時）

▲友愛會の決議

一昨日九州大會

[illegible]後七時開會せる友愛會九州[illegible]戸より太村吉氏九州支[illegible]直一氏外三名の委員を擧[illegible]の二項を決議し散會せるが會の[illegible]は數十名の警官私服巡査[illegible]で警戒したり

[illegible]業事項の[illegible]を期し其の回[illegible]七日中に次長に面會して求む[illegible]

▲一日の損害

卅万圓

遠藤官房主事談

八幡製鐵所職工の怠業に依り國家の蒙る損害は頗る巨大に達すべきものあり右に就き遠藤官房主事は語る「職工の怠業に依り直接の損害は仕事をせざる職工に支拂ふべき賃銀一日三万圓位なれども更に[illegible]

内務大臣電來る

訓示すべく印刷中

[illegible]内工場各所に小衝動を減じつゝ六日夜を過したるが八幡製鐵所は當局の[illegible]なる態度を警戒厳重なりし爲め七日朝に至り漸く怠業[illegible]に就き小康の狀態を續け居れり

▼白仁長官より七日朝中川次長に宛て長文の訓電あり政府の[illegible]たる態度を報じ來り且つ白仁長官の名を以て職工[illegible]夫全部に對し午後[illegible]示を發布する事に決し目下印刷中なれば[illegible]後其内容の如何に依りては形勢如何に變化するやも知れず、不穏職工團は依然として同志の糾合に努め初の要求にして容れられざれば七日夜を期して或行動を取るべし等の

▼流言を放ち居れり、製鐵所内は勿論八幡市中は人心恟恟たる有樣なり尚製鐵所職工より成る七千名の同志會員は七日午後一時より八幡市郷生座に於て發會式を擧行せしが同會員は製鐵所側と目せらるゝ穏健派にて今回の罷工に加擔せざるべく之が氣勢を擧げ居れるより勞友會側職工多數は

時狀態

固られた八幡

軍隊の出動準備成る

八日晝刻で各工場の休止を打切る筈だつたが形勢益〻不良の爲に同夜夜勤作業も休止するの已むなきに至つたが而も形勢は刻刻危急に赴きつゝあり富地憲兵隊司令官は姫路以西久留米同

憲兵の一隊が來幡し

それに引續き各隊から出張し來り八日午後の市中は雨中に憲兵が眼を光らせて徘徊し恰も戰時狀態の如くである又小倉聯隊の[illegible]

▲福岡縣知事は電報

製鐵所の其の後の狀況依然として不穏の兆候あり殊に電報後も大部分は怠業狀態に在り六日夜に入りての狀況は怠業職工百名或は二百名の罷業又は散在したる職工等が電燈線又は機關車等に妨害を加ふる等不穏の模樣あるより巡査を派遣し取締中なり

午後六時交代後（午後十一時三十分迄）の情報に依れば溶鑛爐外四工場丈けの作業にして他は殆んど全部怠業の狀態に在り（内務省著電報）

他は引續き休業した今回の損害額は三十萬圓であ[illegible]

勞友會の幹部

七名起訴さる

淺原西田正副長以下

八幡署に拘引中の左記七名は七日以來檢事の取調を受けて居つたが八日遂に起訴された

勞友會長 淺原建三

同副會長 西田健太郎

同理事 吉村眞澄、同鳥井直樹

同安廣榮一、同福信[illegible]

本人

尚ほ本事件取調應援の[illegible]福岡地方裁判所檢[illegible]方裁判所檢事は急遽來[illegible]極力取調中である（八幡

東宮殿下

沼津へ御

七日葉山御用邸へ參[illegible]下には八日午後二時十五[illegible]驛御發車五時沼津御用邸[illegible]遊ばされた（沼津電話）

[illegible]道歸朝した大阪[illegible]彦六少將は下關で富田中[illegible]八幡製鐵所の罷業狀態を視察し一兩日倉兵器支廠を視察し一兩日[illegible]任する筈（下關電話）

[illegible]朝鮮在住の兵器製造所を視察の歸途八日朝下關に着したる東京砲兵工廠長宮田中將は下關驛頭で不安氣な面持にて遙に八幡方面の空を見遣り乍ら「八幡製鐵所同盟罷業は自分等の所管事務と密接重要な關係があるので事件突發以來

電報で

經過の通知を受けて居るが鎔鑛爐の火を落してゐないさうだから未だ不幸中の幸